

問 世紀越えトンネルの実現に向けて、他県他市との連携地域活性化事業に取り組む考えはないか

答 「環十和田湖ゲートウェイ構想」という新たな動きもあることから、これを踏まえながら方向性を検討していく

財政分析について

問 経常収支比率が平成26年度以降最も高い92・7ポイントとなり、財政の弾力化が低下してきていると分析しているが、このことについて、どのように分析し、今後どのように対応していくと考えているのか。

答 本市の平成30年度の決算においては、市民税が増加した一方で、普通交付税が減少したほか、扶助費や繰出金などが増加したことが比率上昇の要因と捉えている。比率の改善については、歳入では市税等の最大限の確保に努め、歳出においては、事業の目的、効果、優先度等を見極め、予算編成段階から徹底したコスト削減を図るとともに、予算執行においても事務の改善を進めるなど、歳出の効率化に努めていく。

***経常収支比率とは**

地方公共団体の財政構造の弾力化を判断するための指標であり、人件費、扶助費、公債費などのように毎年度経常的に支出される経費に充当された一般財源の額が、地方税、普通交付税などの毎年度経常的に収入される一般財源に占める割合を指す。従来は80%を超えないようにすることが望ましいとされているが、全国的に扶助費等が増加傾向にあり、平成30年度の平均は93%である。

金澤 大輔 議員
（鹿真会・公明）



質問した項目

■地域おこし協力隊について ■地場産業が活発なまちづくりについて ■世紀越えトンネルの実現について ■財政分析について（鹿角市一般会計・特別会計歳入歳出決算審査意見書から） ■管理が行き届いていない猫について



録画配信はこちらから

問 移住者の仕事のマッチング支援はスムーズに行われているか

答 雇用対策協定を結んでいる関係機関と連携し、就業に関する相談に対応している

かづの未来会議について

問 2力年で開催されるようだが、現在までのような課題や意見が出てくるか。

答 この会議は7次総見を反映させるため市民15人を委員に委嘱しており、住み心地や愛着、大切だと思ふまちの姿に関する「市民アンケート」「まちづくり中高生アンケート」の結果を示し、理想とするまちの姿について話し合っていた。会議では若者の地元定着は、首都圏との給与格差や職業選択の少なさが流出の原因であり、かづの厚生病院

成田 哲男 議員
（誠心会）



質問した項目

■移住促進について ■かづの未来会議について ■かづの未来の若者会議について ■道路網の整備について ■観光の振興について

問

移住者の仕事のマッチング支援はスムーズに行われているか



録画配信はこちらから

給与格差や職業選択の少なさが流出の原因であり、かづの厚生病院の厚生病院

に分娩取扱機能がないことで生じる人口減少への悪影響も課題として挙げられた。一方で、親世代が子供たちに対し、鹿角の魅力伝えていくか、働く喜びを希望や夢を持って語りかけているかという問題提起もあった。また、若者の上京をマイナスイメージだけで捉えず、若者が地元を一度離れることで気付く故郷への思い、そこで学んだ技術や経験を本市で還元できるような、戻って来たいと思えるまちづくりが必要であるとの指摘もあった。

今後引き続き市民とともに本市の目指すべき将来の姿について検討していく。